

令和 8 年度					事務事業一覧表(シート作成分を除く)					担当課		健康長寿課		担当G		健康増進グループ		作成日		令和	8	年	7	月	1	日	作成
振興計画体系					総合戦略体系		事業番号	事業名	事業目的	事業内容	令和8年度 事業費(千円)					実施状況	成果	課題	今後の方向性								
											国県支出金	その他 特定財源	一般財源 (志基金含む)	合計	前年度比												
4	1	2	4	7	1122	食と健康のサポーター活動支援事業	食と健康のサポーター活動により市民が良い習慣を身に付け、食生活の改善が行なえるようその活動を支援する。	食と健康のサポーターの地域活動(調理講習会等)に対する費用の負担及び指導や助言。	0	0	300	300	0	自主活動として、地域の小集団で食生活改善の普及活動をしている。また、資質向上のため研修会や調理実習などは積極的に行われている。 令和6年度 3人養成	地域に根差した活動が継続できている。	食と健康のサポーター活動を理解し、目指す人が少ないため、人員の確保が難しい。	現状維持										
4	1	2	4	7	217	健康増進事業(健康教育事業)	市民一人ひとりの健康づくりを推進するため、個人の意識啓発を行う。	①健康づくり推進員養成 ②健康相談	11	0	989	1,000	89,000	①6人養成 ②75回 272人	地域の身近な方が推進員となり、活動していただくことにより、健康意識の向上につながっている。健康	健康づくり推進員がいない地区がある。健康づくり推進員の活動の場を検討する必要がある。	現状維持										
4	1	2	4	7	1125	地域自殺対策強化事業	一人で悩まず相談することで解決への糸口を見出すことができる。また本人がSOSを発することができ、周囲もSOSに気づき関係者へつなぐことで誰もが自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指す。	①自殺対策ネットワーク会議の開催 ②自殺対策本部会議等の開催 ③ゲートキーパー養成講座の開催 ④自己判断システムこころの体温計の開設 ⑤こころの健康づくり相談会の開催	226	0	323	579	86	①2開催 ②1回開催 ③13回 615人 ④アクセス数 延6, 055人 ⑤7回 23人	ゲートキーパー講座で、市内の2高校で実施するとともに、5つの企業でも実施することができた。	自殺死亡率は、県・国より高い傾向にある。関係機関と連携を図り、本市の実情を捉えながら事業を展開していく必要がある。 自殺対策計画に沿った事業に取り組むとともに、悩みを抱えた方が相談しやすい機会を作っていく。	現状維持										
4	1	2	4	7	1126	若年末期がん患者に対する療養支援事業	在宅での末期がん治癒に係る経済的負担を軽減することにより、最期まで自分らしく安心して日常生活が送れる。	若年の末期がん患者が、住み慣れた自宅で、最期まで自分らしく安心して日常生活が送れるよう在宅における生活を支援し、患者及びその家族の負担の軽減を図ることを目的とした訪問介護、訪問入浴介護、福祉用具貸与、福祉用具購入を行う。	216	0	216	432	0	福祉用具貸与費用助成 1人	若年の末期がん患者が住み慣れた自宅で最期まで自分らしく安心して日常生活が送れるよう在宅における生活を支援し、患者及びその家族の負担の軽減を図ることができた。	比較的新しい事業のため、事業の周知が必要である。	現状維持										
4	1	2	4	7	1128	がん患者アピアランスケア支援事業	がん患者に対し、手術、放射線療法又は化学療法に伴う脱毛又は乳房切除による精神的負担を軽減するために使用する医療用ウィッグ等及び乳房(胸部)補整具の購入費用の一部を助成し、がん患者の経済的負担の軽減と、治療や就労等の両立を支援する。	がん患者が手術、放射線療法又は化学療法に伴う脱毛又は乳房切除に対して、医療用ウィッグ等及び乳房(胸部)補整具の購入費用の一部を助成する。	125	0	125	250	100	ウィッグ購入助成 4人 補整具購入費助成 6人	がん患者に対し、手術、放射線療法若しくは化学療法に伴う脱毛又は乳房切除による精神的負担を軽減するために使用する医療用ウィッグ等及び乳房(胸部)補整具の購入費用の一部を助成することにより、がん患者の経済的負担を軽減し、治療と就労等との両立等を支援できた。	比較的新しい事業のため、事業の周知が必要である。	現状維持										
4	1	2	4	7	1246	ドナー環境整備事業	日本骨髄バンクを介して骨髄等を提供した市民およびドナーが従事する事業所に対して助成金を交付することで骨髄等提供者の負担軽減を図るとともに骨髄または末梢血幹細胞の推進	日本骨髄バンクを介して骨髄等を提供した市民およびドナーが従事する事業所に対して、骨髄等の提供のための通院または入院に対する費用の一部を助成する。	105	0	105	210	210	R8年度開始 新規事業			新規										